

岡崎城跡の石垣に見られる特徴



① 本丸天守台石垣(北面) □
約2×2mの【鏡石】で、廊下橋正面に配置されています。鏡石は権威の象徴や経済力の誇示などのため、意図的に配置されています。



⑩ 本丸天守台石垣(東面) □
自然石の長大な【横長石】を用いた石垣で、その上にさらに鏡石を配置しています。
(※通常は見学できません)



③ 本丸埋門石垣(南面) □
石材の表面に【刻印】が刻まれています。刻印は大名・家臣・石工集団などの家紋や記号の他、採石段階の記号など諸説あります。
(※菅生川端石垣にも見られます。)



⑧ 本丸埋門石垣(南面) □
埋門の部材の【欠き込み痕跡】が石垣に残っています。この石垣の向かい側にも同じ加工痕跡が残っています。



⑬ 持仏堂曲輪腰巻石垣 □
直方体の角石の控えの長短を交互に組み合わせる積み方【算木積み】で、角石の隣の角脇石と一体となって強固な石垣となります。



⑬ 菅生川端石垣 □
石材を積み上げた後、石材の表面を美しく整えるための【はつり仕上げ】がみられます。ノミ等で行う表面加工の一種です。



⑭ 本丸辰巳櫓下石垣 □
角石の稜線を削り出し、一直線状に仕上げる【江戸切り】がみられます。月見櫓台石垣などにも見られます。



⑦ 月見櫓台石垣 □
巨石から石垣用の石材を割取る際につく【矢穴】の痕跡が残ります。城内の多くの石垣で確認できます。

過去の発掘調査で見つかった石垣 (現在は見学できません)



⑪ 菅生川端石垣の基礎
菅生川沿いの柔らかい地盤に築かれているため、松材の【胴木】と【杭木】で不同沈下を防いでいます。



⑫ 東曲輪腰巻石垣
東曲輪の斜面下の腰巻石垣と、斜面中腹にもう一段、石垣が見つかりました。法面保護のためと考えられます。

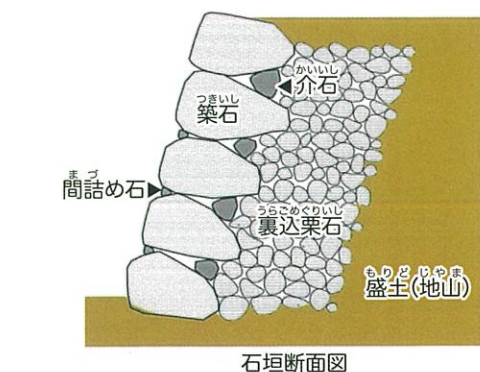


⑫ 菅生曲輪堀石垣
武家屋敷の遺構とともに、堀石垣が見つかりました。南北の屋敷地を繋ぐため、堀に土橋が架けられていました。



⑬ 大林寺郭堀石垣
岡崎城の外堀(大林寺郭堀)に中世末～近代初頭に築かれたと思われる石垣で、上下に分かれ間に犬走りがあります。石垣の総高は7.5m以上です。

石垣の基本的な構造



石垣は基本的に、築石、裏込築石、盛土(地山)の3層構造からなり、築石を支えるための介石、築石の隙間を埋める間詰め石により築かれています。石垣の基礎が判明した例は少ないですが、柔らかい地盤の場合は胴木により石垣の不同沈下を防いでいます。
岡崎城の石垣の石材は、ほぼ全てが地元で産出する花崗岩です。自然石を使う古い石垣の間詰め石には川原石の円礫が使われますが、割石を使うようになると間詰め石にも花崗岩の端材(割った際にできる破片)が使われるようになります。

岡崎市教育委員会
社会教育課
平成30年4月 編集・発行
〒444-8601
岡崎市十王町2-9
TEL:0564-23-7270

※岡崎城跡整備基本計画HP
石垣めぐりマップのダウンロード



こちら▶

岡崎城跡 石垣めぐり

岡崎城は、戦国時代の享徳元年(1452)から康正元年(1455)に西郷頼嗣が、矢作川と乙川の合流点へ突き出す竜頭山に砦を築いたのが始まりとされます。その後、徳川家康の祖父・松平清康が本格的な城郭に改修・拡張しました。家康も岡崎城を本城として三河支配の拠点としました。天正18年(1590)に家康が関東に移ってからは、豊臣秀吉の家臣である、田中吉政が城と城下町を整備し織豊系城郭へと発展させました。慶長5年(1600)の関ヶ原の戦い後は、徳川家譜代大名の本多家(前本多:本多広孝の系譜)、水野家、松平家、本多家(後本多:本多忠勝の系譜)が城主となり幕末まで存続しました。

⑨ 本丸天守台石垣(南面) □ 見たりチェック ✓
不揃いな花崗岩の自然石を用いて築かれており、城内で最も古い段階の石垣と考えられます。

石垣の種類



⑥ 本丸脇多聞櫓台石垣 □
【自然石積み】自然石をそのまま使用して積む技法。石材の大きさ・形が不揃いで、石材同士の間隙がでるため、間詰め石を多く必要とする。



⑮ 持仏堂曲輪腰巻石垣 □
【割石積み】割った石材を使用して積む技法。石材の大きさ・形が整い、表面へのノミ加工が施されるものも含む。



⑤ 本丸大手口石垣 □
【切石積み】割石をさらに加工した切石を使用して隙間無く積む技法。

もの言わぬ歴史の証人「石垣」

岡崎城跡の石垣は、中世から近世にかけての複雑な縄張りなわばりを構成する遺構いこうです。石垣には岡崎産の花崗岩かたがひがんが使用され、石材の加工度と積み方を観察することで様々な石垣の様相が見られます。岡崎城跡の複雑な縄張りを石垣とともにめぐってみませんか。



岡崎城跡石垣めぐりマップ



③ 清海堀石垣 □
曲線状の深い堀を構成する石垣です。一部に天守台に次ぐような古い石垣が残っています。



⑮ 隠居曲輪石垣 □
絵図に描かれたとおり、半円形の曲輪を構成する石垣です。石垣は何度も補修された痕跡が残ります。幕末に石垣が崩れた記録があり、明治時代の古写真にも崩れた状態で写っており、同時代に補修されています。



⑮ 龍城堀石垣 □
連続する3重の石垣の隅角部を見ることができます。龍城堀の石垣には何度も補修された痕跡があります。



④ 本丸大手南袖石垣 □
城内で最も高い石垣です。高さ約11mを測ります。左右の石垣と複雑に折り重なっています。



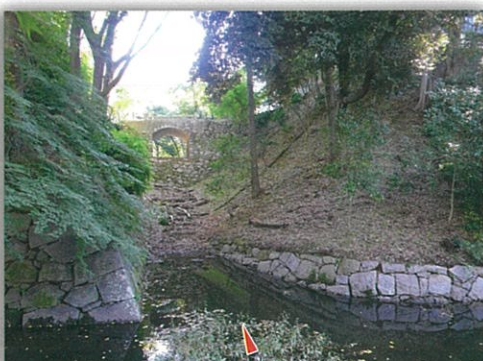
② 持仏堂曲輪の雁木 □
岡崎城跡内では数少ない雁木(石階段)です。城内で唯一の転用石(墓石)が使用されています。



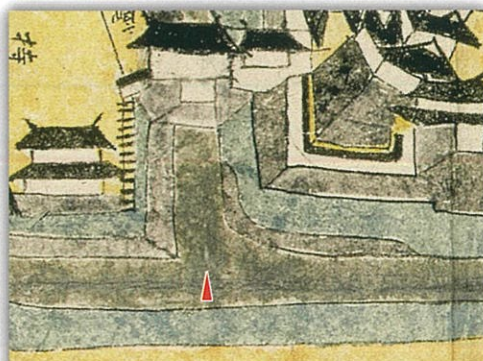
② 持仏堂曲輪の雁木 □
岡崎城跡内では数少ない雁木(石階段)です。城内で唯一の転用石(墓石)が使用されています。



⑪ 埋門北袖石垣 □
築石に大きい石材(自然石と割石)を使っており、高さも10mを超す立派な石垣です。



⑫ 持仏堂曲輪腰巻石垣(左)と本丸腰巻石垣(右) □
絵図に描かれたとおり、持仏堂曲輪腰巻石垣の隅角部は直角に、本丸腰巻石垣は曲線状に曲がります。奥には本丸から持仏堂曲輪へつながる廊下橋の石垣も見ることができます。



⑮ 二の丸南東石垣 □
自然石を用いて積み、間詰め石には川原石と花崗岩がみられる古い様相を示す石垣です。



⑫ 南切通し石垣 □
堀底を道として利用したもので、S字状に曲がります。東隅櫓からの横矢がかかる(敵の側面から矢を射る)構造となっています。



⑬ 菅生川端石垣 □
菅生川沿いの石垣で、発掘調査により全長400m、高さ5.4mにも及ぶことが分かりました。城外郭の防御、治水の役割がありました。



⑬ 菅生川端石垣 □
菅生川沿いの石垣で、発掘調査により全長400m、高さ5.4mにも及ぶことが分かりました。城外郭の防御、治水の役割がありました。